

2013年度岩手大学環境目的、目標及び改善型実施計画

IE1-433-1
最終改定日 2013.3.21

2013年度						
環境方針等	環境目的	環境目標	実施計画	行動の 責任部署	監視測 定責任部 署	難易度
			(具体的に行われるべき行動)			
I. キャンパス環境の改善	PDCAサイクルによる環境マネジメントを実施し、サステイナブルキャンパスづくりを推進する。	ISO14001の更新審査を受審する。	1. 更新審査を受審する(9月)。	全ユニット	EMS推進室	A
		PDCAサイクルによる環境マネジメントシステムを運用する。	2. 2012定期審査の指摘(改善の機会、ストロングポイント、グッドポイント)を踏まえ、PDCAサイクルによる環境マネジメントシステムを運用する。	全ユニット	EMS推進室	A
			3. サステイナブルキャンパス構築のための評価指標を試行する。	環境影響評価WG	EMS推進室	A
		放置自転車を削減する。	4. 通学用自転車を登録制とする。	学生支援課	EMS推進室	A
II. エネルギーの使用	岩手大学エネルギー管理標準に沿ったエネルギーの使用の合理化を適切かつ有効に実施し、CO ₂ 排出量を2015年度には2005年度比で10%削減する。	エネルギー使用の削減に努めCO ₂ 排出量を2005年度比8%以上、削減する。	1. 学内に設置されているサーバの台数を把握する。	学部・研究科ユニット	EMS推進室	A
			2. 新営・改修に伴う施設・組織において適切なエネルギー管理を図る。	該当ユニット	EMS推進室	A
			3. JVETS第5期のCO ₂ 排出量算定に基づきH25年度上田地区CO ₂ 排出量を算出する。	環境影響評価WG	EMS推進室	A
			4. 電気ストーブ実態調査に則り電気ストーブ使用について検討する。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
III. 用紙類の使用	用紙類の使用量を削減するとともに環境配慮型製品を使用する。	用紙類使用量を前年度比1%削減する。	1. 用紙の部局別購入枚数を明らかにするとともに、使用枚数削減に向けた基礎データの把握に努める。	EMS推進室事務局	EMS推進室	A
		再生紙等の利用を促進する。	2. 外注の冊子等の印刷物に森林認証紙を使用する。	全ユニット	EMS推進室	A
IV. 水の使用	水の使用量を2015年度には2005年度比で10%削減する。	水道使用量を2005年度比8%削減する。	1. 部局別の月次水道使用量を監視する。	省エネ省資源WG	EMS推進室	A
V. 化学物質等の使用 特定化学物質 毒物劇物 有機溶剤 農薬管理 放射性物質 一般薬品 高圧ガス	化学物質等の適正な管理を行う。	化学物質等の全学一元管理を推進する。	1. 可燃性危険物である高圧ガスボンベの数量を把握する。	安全衛生管理室	EMS推進室	B
		全学共通の安全マニュアルの運用を図る。	2. 実験・実習等において化学薬品等の安全教育を徹底する。	事務局以外のユニット	環境教育WG	B
VI. 廃棄物等の排出 特別管理産業廃棄物 廃試薬・廃液 産業廃棄物 建設廃材	廃棄物の発生を抑制する。	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化を図る。	1. 全学統一廃棄方法のマニュアル化を検討する。	廃棄物削減WG	EMS推進室	A

VII. 環境教育 環境人材教育	大学における環境教育・環境人材育成を推進する。	環境教育・研修の推進を図り、全学で「持続可能な共生社会に寄与する環境人材育成」を進める。	1. 学生等に対し緊急事態を防止するための教育を行う。	学部・研究科ユニット、地域連携推進センター	環境教育WG	A
			2. 「テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書する共同行動2013」を学内外に周知し、参加者数を増やす。	大教センター	学務課	A
	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	附属幼稚園では、花や野菜の栽培等を通して、植物が育つ環境についての関心をもたせる活動を行う。 附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。また、委員会やたてわり活動を通して、環境に配慮した活動を行う。	3. 花の栽培や野菜づくりでの水やりや草取りなどの世話を通して、それらの生長の過程に感動したり、収穫の喜びを味わったりする中で、植物が育つ環境への興味・関心を高めていけるようにする。	附属幼稚園	当該ユニット責任者	A
			4. 総合的な学習の時間に3年「中津川探検」の単元を通して、中津川の自然の観察や水質調査、街路樹調べを行ったり、環境整備に関わっている人に話を聞いたりすることで、環境問題について考えたり発信したりする学習を行う。	附属小学校	当該ユニット責任者	A
			5. 環境委員会の活動として、学校周辺や加賀野地下道のゴミ拾い、冬季の除雪作業などを行い、地域の環境を整えるとともに、全校に活動を広げるようにする。	附属小学校	当該ユニット責任者	A
			6. たてわりピクニックの際に、活動場所のゴミ拾いを全校で行い、学校生活や日常生活における環境に対する意識を高める。	附属小学校	当該ユニット責任者	A
			7. 気象システムを活用し、理科の学習を通して環境について学習し、環境に対する関心を高めるようにする。	附属小学校	当該ユニット責任者	A
			8. 校舎内外の環境美化活動、環境保護活動として、次の取組を行う。 ・文化活動としての清掃活動 ・生徒会活動による校地及びその周辺の清掃・環境美化活動 ・日番・週番活動による学校環境向上の取組 ・ボランティア委員会による、附属幼稚園等の清掃・環境美化活動	附属中学校	当該ユニット責任者	A
			9. 廃油を活用した「リサイクル石けん」や地域のりんご園等から提供された材料を使った「クラフト製品」は、中学部の作業学習で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者	A
	附属特別支援学校では、作業学習・生活単元学習で使用する原材料のリサイクルを推進するとともに委員会活動を通して地域とタイアップした環境活動を実施する。	10. 空き缶、古新聞等の「資源回収」は全校に呼びかけ、中学部委員会活動で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者	A	
		11. 「学校周辺の環境整備」は、中学部生活単元学習で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者	A	
		12. 古布を使った裂き織りの製品作りは、高等部作業学習「染織」で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者	A	
		13. 学内外のごみ拾いや校内巡回による冷暖房の点検を行い、また、地域型の環境教育イベントを定期的に開催する。それらの情報や活動の内容、結果を広報により学内外で共有する。	EMS学生委員会	EMS推進室	A	
	学生の自主的な環境保全活動を推進する。	EMS学生委員会が中心となり岩手大学環境ネットワークの充実を図る。	14. 岩手大学環境ネットワーク全学大会を主催する。	EMS学生委員会	EMS推進室	A
		環境関連の学生サークル等の活動を支援する。	15. キャンパスクリーンサポーターを募集し、職員と一緒に清掃活動の推進を図る。	学務課	EMS推進室	A
VIII. 環境関連研究	大学・大学院における環境関連研究を推進する。	各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。	1. 流域を単位とした森川海環境連携を水の視点から解析する。	人文社会科学部	EMS推進室	A
			2. 「学校気象台」と地域連携ネットワークの改善を進める。発足した「学校気象台」研究会を通して、学部・研究科での教育・研究と地域の学校が協働して、授業改善の研究や研修を継続して行う。	教育学部	EMS推進室	A
			3. ソフトパス工学をはじめ、学部・研究科の特色を活かし、環境関連研究を推進する。	工学部	EMS推進室	A
			4. 家庭用浄水器による各種放射性物質の除去効果に関する研究	農学部	EMS推進室	A
IX. 構内事業者の取組	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	岩手大学生協同組合において環境に配慮した取組を実施する。	1. グリーン購入法適合品の中でも優れたものの宣伝、販売を強化する。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
			2. 生ゴミ排出量削減のためミミズによる残さ処理実験量を拡大させ、毎月のリサイクル量を広報する。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
		放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。	1. 実験室の化学薬品管理及び安全マニュアルの運用を図る。	放送大学岩手学習センター	当該ユニット責任者	A
X. 地域社会に対する取組	環境に関わる三陸復興事業を進める。	三陸沿岸地域等の復興推進のための取組を行う。	1. 関係自治体等及び協定大学等と連携を図り、水圏環境調査、農地復興、震災廃木材の活用等の研究を進める。	三陸復興推進室	EMS推進室	A

2013年度岩手大学の環境目的、目標及び継続型実施計画

環境方針等	2013年度		実施計画 (具体的に行われるべき行動)	行動の 責任部署	監視測定 責任部署	難易度
	環境目的	環境目標				
キャンパス環境の改善	PDCAサイクルによる環境マネジメントを実施することにより、省エネ・省資源の取り組みを強化し、エコキャンパスづくりを推進する。	緑豊かなキャンパスづくりに向け、構内環境整備を全学的に取組む。	1. 年間計画を定め、構内清掃、除草等の環境整備を実施する。	全ユニット	EMS推進室	A
		放置自転車を削減する。	2. 学生議会と協働による駐輪指導を行い、放置自転車削減を呼び掛ける。	大学教育総合センター	EMS推進室	A
			3. 上田構内等における放置自転車の実態調査を行うと共に、回収のうえ、リサイクルショップへの引渡し（無料）を実施する。	学務部 財務管理課	EMS推進室	A
		学内全面禁煙を維持し推進する。	4. 喫煙に関する調査を行う。	安全衛生管理室	EMS推進室	A
			5. 学生と教職員による清掃パトロールを行う。	安全衛生管理室	EMS推進室	A
エネルギーの使用 電気・A重油 ガソリン・都市ガス 灯油	エネルギー使用量及びCO2排出量の削減を推進する。	光熱量の見える化などにより、教職員、学生、構内事業者への意識啓発を実施する。	1. 本学の省エネ・省資源の取組方針を、学内事業者、関係事業者等に周知する。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
		ピーク電力の削減を図る。	2. 階段利用の促進を行い、エレベータの運転を抑制する。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
			3. 時間外勤務の場合の照明は必要範囲に限定する。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
			4. 定時退庁日の18時以降の消灯及び昼休み消灯（窓口業務を除く。）を実施する。	全ユニット	省エネ省資源WG	A
		機器等の適切な運用により省エネルギー化を推進する。	5. トップランナー方式による電気機器の更新を図り、節電節約を行う。	全ユニット	省エネ省資源WG	A
			6. 空調機の運転時間及び室温設定の最適化を図る（原則として時間外の運転禁止）。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
		教職員・学生が一体となった省エネ・省資源巡回を実施する。	7. 省エネ・省資源パトロール班による講義室の消灯及び暖房OFFの確認を実施する。	該当ユニット	省エネ省資源WG	A
		CO ₂ 排出量の見える化を図る。	8. ノーマイカー通勤デーを継続する。	環境にやさしい事業所認定WG	環境にやさしい事業所認定	A
			9. 見える化モニタの効果的な運用を図る。	EMS推進室事務局・EMS学生会 学務部、農学部、工学部	EMS推進室	B
			10. ユニット毎のCO ₂ 排出量削減について電力使用を基本に管理運用する。	CO ₂ 排出量取引検討WG	EMS推進室	A
		施設改修に併せて、省エネ機器や太陽光発電等の再生可能エネルギー設備を導入する。	11. ボイラー燃焼バーナーを都市ガス用に転換する。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
			12. 照明設備を人感センサー制御に切り替える。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
			13. 照明設備のLED化を推進する。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
			14. 太陽光発電システムの増設を推進する。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
			15. サーキュレータを設置し、冷暖房効率の向上を推進する。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
水資源の使用	水道使用量の削減を推進する	水道使用量を2005年度比8%削減する。	1. 節水型水道設備の設置を推進する。	施設管理課	省エネ省資源WG	C
用紙類の使用	用紙類の使用量を削減する。	用紙類使用量を前年度比1%削減する。	1. 両面印刷を原則として取り組む。	全ユニット	EMS推進室	A
化学物質等の使用 特定化学物質 毒物劇物 有機溶剤 農薬管理 放射性物質 一般薬品 高圧ガス	化学物質等の適正な管理を行う。	化学物質等の全学一元管理を推進する。	1. 化学薬品の一元管理を徹底する。	安全衛生管理室	EMS推進室	A
			2. 高圧ガスの一管理を行う。	安全衛生管理室	EMS推進室	A
		実験廃液の適切な回収と処分を行う。	安全衛生管理室	EMS推進室	A	
廃棄物等の排出 特別管理産業廃棄物 廃試薬・廃液 産業廃棄物 建設廃材	排水の適正な管理を促進する。	排水の管理を徹底する。	1. 排水水の管理を徹底する。	施設管理課・安全衛生管理室	EMS推進室	A
			2. 排水水の定期的な水質調査を実施する。	施設管理課・安全衛生管理室	EMS推進室	A
			3. 食堂排水のグリストラップ清掃を強化する。	岩手大学生協	EMS推進室	A
	廃棄物の発生を抑制する。	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化を図る。	4. 盛岡市ゴミ分別方法に合わせ、事業系一般廃棄物の分別を推進する。	全ユニット	EMS推進室	A

グリーン購入	岩手大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	環境配慮型製品を優先的に購入する。	1. 岩手大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を教職員に周知を図る。	全ユニット	EMS推進室	A
環境教育 環境人材教育	大学における環境教育を推進する。	環境教育・研修の推進を図る。	1. 環境に関する図書の実践を図る。	情報メディア課	EMS推進室	A
		環境教育・研修の推進を図り、全学で「持続可能な共生社会に寄与する環境人材育成」を進める。	2. 環境教育基礎研修・内部監査員養成研修として、「環境マネジメントと岩手大学」「環境マネジメント実践学」を継続開講する。 ・2013年度EMS公開セミナーを開催する。	環境教育WG	EMS推進室	A
			3. 要件を満たした申請者に「環境管理実務士」を認定する。	環境管理実務士小委員会	環境教育WG	A
			4. 専門科目「環境マネジメント実践演習」を継続開講する。	人文社会科学部	環境人材育成プロジェクト	A
	学生の自主的な環境保全活動を推進する。	環境関連の学生サークル等の活動を支援する。	5. サークル等の取り組みに対し、適切な指導・助言及び支援を行う。	学生支援課 EMS学生会 生協学生委員会	学生支援課 EMS推進室 岩手大学生協	A
構内事業者の取組	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	岩手大学生協同組合において環境に配慮した取組を実施する。	1. 食育と共にキャラクターによる宣伝を年10回行う。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
			2. 簡単に行える冷凍ケースは毎月、エアコンについては8回を目標に清掃を行う。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
			3. 新入生向け宣伝物へ取組と協力の案内を行う。教職員のレジ袋利用実態を明らかにする。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
			4. 引っ越しを申込みする卒業生向けにリサイクルショップの案内を行う。新入生向けにリサイクル商品販売の場を用意する。	岩手大学生協	当該ユニット責任者	A
	放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。	1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を推進する。	放送大学岩手学習センター	当該ユニット責任者	A	
		2. 廃棄物の分別回収を継続実施する。	放送大学岩手学習センター	当該ユニット責任者	A	
		3. グリーン購入法適合商品の積極的購入を行う。	放送大学岩手学習センター	当該ユニット責任者	A	
地域社会に対する取組	環境関連の取組を地域社会に情報発信するとともに、地域の環境活動に協力する。	地域の環境活動に協働して取組む。	1. 環境に関する外部委員会等への就任依頼に対し積極的に参加・協力を行う。	研究交流部、学部・研究科ユニット、地域連携推進センター	EMS推進室	A
			2. 環境に関する地域からの要望に対し、学部・研究科の特色を生かした公開講座や地域課題解決プログラムに取組む。	学部・研究科ユニット、地域連携推進センター	研究協力課	A
	地域の環境活動に協働して取組む。	3. 中小企業等の環境報告書作成支援等の地域貢献に取組む。	人文社会科学部	EMS推進室	A	
		4. 自治体、NPO、企業等の地域環境活動に協働して取組む。	該当ユニット	EMS推進室	A	
		5. 「上田地域連携協議会」のもと、教職員・学生が協力し環境美化の推進に取り組む。	総務広報課	EMS推進室	A	